



# ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2010年（平成22年）9月5日号 No. 1505

## 目次

■ロシア向け日本産果実輸出の可能性	芳地 隆之	1
■統計速報		11
2010年1～7月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績		／11
2010年1～7月の日ロ貿易		／12
■キーパーソン		14
カザフとウズベクに新大使		／14
■トピックス		14
三菱自動車 Moskva 国際モーターショーに出品		／14
酒田市で極東ロシア花卉市場セミナー		／14
カザフ向け円借款契約の調印		／14
■エトセトラ		15
ロシア・エネルギー戦略の詳細な解説		／15
シャポヴァーロフ氏、情報会社の東京事務所に		／15

## ロシア向け日本産果実輸出の可能性

ロシアNIS経済研究所  
芳地 隆之

### はじめに

わが国の農林水産省は平成18年（2006）度の重点政策のひとつとして「攻めの農業への転換を支援する基盤整備」を挙げた。具体的には（1）集落営農の育成など基盤整備を契機とした担い手の育成・確保や農地の利用集積の促進、（2）輸出や地域ブランドの確立など地域の多様な農業戦略の実現に資する基盤整備やソフト施策の推進、である。とくに（2）では「輸出や地域ブランドの確立の支援」として、農作物の高付加価値化による輸出の効果的促進を掲げている。

そうした政策の一環として、近年、地方自治体や生産者団体もロシアを日本産高級果実の輸出先として注目し、トライアル輸出やロシアのバイヤーを招聘した商談会、見本市への出展支援等を行っている。いまでは、りんご、柿、マンゴー、キウイ、梨、ブドウ、ピワ、みかん、メロン、スイカ、いちご、キンカン、文旦、オレンジ、グレープフルーツなど様々な品目がロシア向けに出荷されるようになった。とはいえ、現在のところ、輸用量